

病害虫発生予報 第4号

(向こう1か月間の発生予報)

I 総括表

作物名	病害虫名	地域	発生量	発生時期	摘要
水稲	葉いもち	全域	やや多	並	
	紋枯病	全域	並～やや多	並	
	ツマグロヨコバイ	全域	並	並	
	セジロウカ	全域	並	並	
	イナゴ	全域	並	並	
	イトムシ(イモシクセリ)	全域	並	並	
	カメムシ類	全域	並	並	
りんご	褐斑病	全域	並	並	
	黒星病	全域	並	並	
	斑点落葉病	全域	並	並	
	輪紋病	全域	並	並	
	炭疽病	全域	並	並	
	キンモンホソガ	全域	並～やや多	並	
	スモモヒメシンクイ	全域	並	並	
	ナシヒメシンクイ	全域	並	並	
	モモシンクイガ	全域	並	並	
	リンゴハダニ	全域	並～やや多	並	
ナミハダニ	全域	並～やや多	並～やや早		
	リンゴコカクモンハマキ(ハマキムシ類)	全域	並	並	
なし	うどんこ病	全域	並	並	
	黒星病	全域	並	並	
	黒斑病	全域	並	並	
	輪紋病	全域	並	並	
	枝幹性病害(胴枯・枝枯病)	全域	並	並	
	クワコナカイガラムシ	全域	並	早	

なし	カメムシ類	全域	並	並	
	シンクイムシ類	全域	並	並	
	ハダニ類	全域	並	並	
	リンゴコカクモンハマキ	全域	並	並	
もも (ネクタリンを除く)	黒星病	全域	並	並	
	せん孔細菌病	全域	並	並	
	灰星病	全域	並	並	
	シンクイムシ類	全域	並	並	
	リンゴコカクモンハマキ	全域	並	並	
	モモハモグリガ	全域	並	並	
	ハダニ類	全域	並	並	
ぶどう	晩腐病	全域	並	並	
	さび病	全域	並	並	
	べと病	全域	並	並	
	クビアカスカシバ	全域	並	並	
	チャノキイロアザミウマ	全域	並	並	
かき	うどんこ病	全域	並	並	
	炭疽病	全域	並	並	
	円星落葉病	全域	並	並	
	カキクダアザミウマ	全域	並	並	
	カキノヘタムシガ	全域	並	並	
	ハマキムシ類	全域	並	並	
	フジコナカイガラムシ	全域	並	並	
トマト	灰色かび病	全域	並	並	
	輪紋病	全域	並	並	
きゅうり	斑点細菌病	全域	並	並	
	べと病	全域	並	並	
	うどんこ病	全域	並	並	
	炭疽病	全域	並	並	
	褐斑病	全域	並	並	
果菜類 (きゅうり、 トマト等)	ウイルス性病害	全域	並	並	
	アザミウマ類	全域	並～やや多	並	
	アブラムシ類	全域	並	並	
アブラ科 野菜	黒斑細菌病	全域	並	並	
	軟腐病	全域	並	並	
	コナガ	全域	並	並	

はくさい	ピシウム腐敗病	全域	並	並
	べと病	全域	並	並
レタス	べと病・菌核病・ 灰色かび病・すそ枯病	全域	並	並
	斑点細菌病	全域	並	並
	軟腐病・腐敗病	全域	並～やや多	並
アスパラガス	茎枯病	全域	並	並
野菜・花き 共通	オオタバコガ	全域	並	並
	ヨトウガ類	全域	並	並
	ハモグリバエ類	全域	並～やや多	並
	アブラムシ類	全域	並	並
	アザミウマ類	全域	並～やや多	並
	ハダニ類	全域	並	並

※発生時期の空欄は、発生時期の関係ないものや常時発生のもを示す。
※地域指定がある場合は、その地域以外は、発生量、発生時期とも「並」を示す。

II 向こう1か月の天候の見通し及び予報の根拠にかかる気象要因

1 向こう1か月の天候の見通し（気象庁 令和4年7月14日発表）

○関東甲信地方【7月16日～8月15日】

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高い見込み。

○向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の出現確率(%)

区分	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
平均気温	20	30	50
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

2 予報の根拠にかかる気象要因

(+)は発生を増加させる要因、(-)は発生を減少させる要因を示す。

III 水 稲

1 葉いもち

(1) 予報の内容 発生量： **やや多** 発生時期： **平年並**

(2) 予報の根拠

①いもち感染予測モデル「BLASTAM」によると、6月の感染好適条件の出現

回数は中信地域で平年よりも多く、南信地域で平年並、東信地域及び北信地域は平年と比べ少なかった。

②7月上旬の巡回調査では、葉いもちの発生は確認されなかった。

③7月に入り、各地で葉いもちが発生し始めており、常習発生地では発病株率100%のほ場もみられる。

④気象要因(-) 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量、日照時間はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

①水田に放置された補植用苗は感染源になりやすいため、早急に処分する。

②気象情報や葉いもち感染予測モデル「BLASTAM」等の予測情報に注意し、ほ場観察による早期発見に努め、発生が確認されたら直ちに防除する。

③キタジンP、カスガマイシン又はMB I-D剤の耐性菌が認められている地域では、他系統の薬剤を用いる。

④窒素過多は、いもち病の発生を著しく助長させるので、過剰な追肥は控える。『長野県における主要3品種の葉いもちに対する感受性の高まる葉色の目安』が「長野県農作物病害虫・雑草防除基準」(以下「県防除基準」という。) p.68に掲載されているので参考とする。

2 紋枯病

(1) 予報の内容 発生量： **平年並～やや多** 発生時期： **平年並**

(2) 予報の根拠

①前年、病斑上に形成された菌核が土中で越冬し伝染源となる。前年発生したほ場で、再び発生するおそれが高い。昨年の発生は、南信地域、中信地域で発生が多いほ場がみられた。発生の多かったほ場では本年も発生すると予想される。

②気象要因(+) 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量、日照時間はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

①昨年発生が多かったほ場では注意する。

②病斑が上位葉鞘に進展し始める時期(出穂2週間前頃)に防除する。

3 ツマグロヨコバイ

(1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**

(2) 予報の根拠

①予察灯への誘殺頭数から第1世代成虫の発生量は、平年と比べやや少なかった。巡回調査でのネット20回振調査における捕獲頭数も平年と比べやや少なかった。

②気象要因(+) 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量、日照時間はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

①有機リン剤及びカーバメート剤に対して、感受性の低下している地域では混合剤防除する。

4 セジロウんカ

(1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 6月までは予察灯への誘殺はみられなかった。例年、7月上旬頃から誘殺される。
- ② 気象要因 (+) 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量、日照時間はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 今後の予察情報に注意する。
- ② 防除対象となる第2世代幼虫の防除適期は、8月上旬頃と予想される。
- ③ 若齢幼虫は株元に生息するので、薬剤は株元までかかるよう丁寧に散布する。

5 イナゴ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 昨年の発生が多かった地域では、越冬量が多いと予想される。
- ② ネット20回振調査では、一部のほ場で幼虫捕獲頭数が多かったが、一般的には平年と比べやや少なかった。

(3) 防除上の留意点

- ① 7月中旬頃までに防除する。

6 イネツトムシ（イチモンジセセリ）

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 千曲市に設置した黄色粘着トラップによる誘殺は、7月第2半旬に第1世代成虫が誘殺された。

(3) 防除上の留意点

- ① 北信地方の晩植地域における第2世代幼虫の防除適期は、例年は8月上旬頃である。

7 カメムシ類（斑点米）

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 6月下旬の畦畔すくい取り調査、7月上旬の本田ネット20回振調査において、斑点米カメムシ類の捕獲頭数は、平年並～やや少なかった。
- ② 県下6カ所に設置した予察灯のうち5か所で、6月第5半旬以降、アカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺頭数が増加したが、ほぼ平年並の誘殺頭数であった。
- ③ 気象要因 (+) 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量、日照時間はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① ほ場周辺のイネ科雑草（特にイタリアンライグラス、スズメノカタビラ等）が発生源となるので、定期的に草刈りを行う。ただし、出穂間近の草刈りはカメムシ類を本田内に追い込むおそれがあるため、出穂2週間前までに終了させる。
- ② 斑点米の発生は、出穂の早い品種や作型で多い。
- ③ 防除適期は、出穂7～10日後である。発生が多い場合には、さらに7～10日後に2回目の防除を行う。粒剤を使用する場合には、出穂期に防除をするがアカ

ヒメヘリカメムシ、クモヘリカメムシ等の中～大型種には効果が低いので、発生種を確認のうえ使用する。

- ④ 中信地域、北信地域ではアカスジカスミカメの発生が年々多くなっており、本種に対して、出穂7～10日後よりも早い時期の薬剤散布は、防除効果が劣るので注意する。

IV りんご

1 褐斑病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 巡回調査では、東信地域及び南信地域、北信地域で発生がみられ、発生量は平年並であった。

(3) 防除上の留意点では

- ① 「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。

2 黒星病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 巡回調査では、東信地域及び北信地域で発生がみられ、発生量は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

- ① 梅雨明け後の高温期は感染が停滞するが、発生が多い園では定期的に防除する。

3 斑点落葉病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 巡回調査では、東信地域及び南信地域、北信地域で発生がみられ、発生量は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

- ① 例年、6月中下旬頃から発生が増える。今後、降雨が多く多発することが予想される場合は、「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。

4 輪紋病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 越冬伝染源量は平年並とみられる。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」を参照し、薬液が十分かかるように定期的に防除する。
- ② 突発的な降雨が続くと予想される場合は、散布間隔を10日程度に縮める。
- ③ 気温が高く、降雨によって濡れ時間が長いと、果実感染が増加するので注意する。

5 炭疽病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①越冬伝染源量は平年並と予想される。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、薬液が十分かかるように定期的に防除する。
- ②突発的な降雨が続くと予想される場合は、散布間隔を10日程度に縮める。
- ③気温が高く、降雨によって濡れ時間が長いと、果実感染が増加するので注意する。

6 キンモンホソガ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①気象要因（＋） 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量、日照時間はほぼ平年並と予想されている。
- ②巡回調査では、県下全域で寄生葉がみられる。
- ③須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年並であった。
- ④梅雨明けが早く、気温は高いため、発生量は平年並～やや多と予想される。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、防除する。

7 スモモヒメシンクイ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は平年並であった。佐久地域（佐久市）及び北信地域（中野市）でのフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べやや多い。
- (3) 防除上の留意点
- ①第2世代成虫は、平年では8月上旬頃から発生するので、重要な防除時期になる。
- ②「県防除基準」を参照し、シンクイムシ類に登録のある薬剤を選択し、丁寧に散布する。多発園では散布間隔を約10日間にして防除する。

8 ナシヒメシンクイ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、芯折れ症状の発生はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。
- ②第2世代幼虫の防除適期は、平坦地では7月中下旬頃である。

9 モモシンクイガ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年並であ

った。

- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。
- ②気温が高めに推移すると、卵期間が短くなるため、散布間隔の10～14日を守り防除する。
- ③被害果は土中に埋めるなどして、適切に処理する。

10 リンゴハダニ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①気象要因（＋） 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量、日照時間はほぼ平年並と予想されている。
- ②巡回調査では、県下全域で寄生が見られた。
- (3) 防除上の留意点
- ①園地の発生状況に注意し、密度が増加する前に、「県防除基準」を参照し、殺ダニ剤を散布する。
- ②散布むらが生じないようにする。

11 ナミハダニ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並～やや早**
- (2) 予報の根拠
- ①気象要因（＋） 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量、日照時間はほぼ平年並と予想されている。
- ②巡回調査では、県下全域で寄生が見られた。
- (3) 防除上の留意点
- ①園地の発生状況に注意し、密度が増加する前に、「県防除基準」を参照し、殺ダニ剤を散布する。
- ②散布むらが生じないようにする。

12 リンゴコカクモンハマキ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①越冬世代成虫の発生量及び発生時期は、一般的に平年並であった。
- ②巡回調査では、幼虫による新梢被害はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②平地での第2世代幼虫の防除適期は8月上旬頃である。

V なし

1 うどんこ病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、発病はみられなかったが、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。
- ②多発により落葉し、次年度の花芽形成に影響するので注意する。

2 黒星病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、南信地域で発生がみられ、発生量は平年並であった。
- ②気象要因（＋） 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量、日照時間はほぼ平年並と予想されている。
- ③初期防除を逸するなどし、昨年発生が多かった園地は、伝染源量が多いと予想される。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、間隔をあけすぎないように防除する。

3 黒斑病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺のほ場でみられており、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。

4 輪紋病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①越冬伝染源量は、平年並と予想される。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、間隔があけすぎないように定期的に防除する。
- ②特に西洋なしは、本病に罹りやすいので注意する。

5 枝幹性病害（胴枯病・枝枯病）

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、薬液が枝幹までよくかかるよう丁寧に散布する。

6 クワコナカイガラムシ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**早**

(2) 予報の根拠

- ①高森町（南信農業試験場）による有効積算温度を利用した第1世代若齢幼虫のふ化予測日は、平年と比べ7日早い。

(3) 防除上の留意点

- ①園内の発生状況に注意し、「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②常発地など多発が予想される園では、特別散布として有機リン剤などカイガラムシ類の防除に効果の高い薬剤を、2週間間隔で2回以上散布する。

7 カメムシ類

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、クサギカメムシ及びチャバネアオカメムシは平年並である。

(3) 防除上の留意点

- ①7月中旬以降、園地内の飛来状況を確認する。特に山際で毎年飛来がある園地では、気温の上昇につれて多くなる傾向がある。
- ②有機リン剤は残効性がやや短く、ネオニコチノイド剤は吸汁阻害効果がある。
- ③合成ピレスロイド剤は指定地域で使用できるが、指定地域以外では使用しない。

8 シンクイムシ類

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①多発園や産卵のピーク時は、間隔があけすぎないように「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②産卵のピークは標高によって異なるので、園内をよく点検して、適期防除に努める。

9 ハダニ類

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回ほ場では、ナミハダニの発生がみられる。今後の天候やほ場環境によっては、発生が増える可能性があるので注意する。

(3) 防除上の留意点

- ①園内の発生状況に注意し、密度が増加する前に「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②散布むらが生じないように丁寧に散布する。

10 リンゴコカクモンハマキ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①平地での第1世代成虫の発生時期は、7月中旬頃である。

VI もも（ネクタリンを除く）

1 黒星病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

- (2) 予報の根拠
 ①巡回調査では、発生はみられなかった。
 ②近年、発生はほとんどみられていない。

- (3) 防除上の留意点
 ①「県防除基準」を参照し、防除する。

2 せん孔細菌病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
 (2) 予報の根拠
 ①巡回調査では、県下全域で発病葉がみられたが、発生量は平年並であった。
 (3) 防除上の留意点
 ①果実や枝葉への感染は見つけ次第、必ずとり除き、埋没処分等を行う。
 ②「県防除基準」を参照し、防除する。
 ③台風が襲来すると感染量が増えるので、気象情報にも注意する。

3 灰星病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
 (2) 予報の根拠
 ①巡回調査では、東信地域及び北信地域の一部ほ場で花腐れがみられたが、発生量は平年並であった。
 (3) 防除上の留意点
 ①「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。

4 ハダニ類

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
 (2) 予報の根拠
 ①巡回調査では、発生はみられなかった。
 (3) 防除上の留意点
 ①園地の発生状況に注意し、密度が増加する前に、「県防除基準」を参照し、防除する。

5 シンクイムシ類（モモシンクイガ）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
 (2) 予報の根拠
 ①須坂市（病害虫防除所）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べやや少ない。
 (3) 防除上の留意点
 ①「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。
 ②7月下旬～8月上旬に除袋する品種（川中島白桃等）では、除袋後にシンクイムシ類の寄生を受けないように、除袋後すみやかに防除する。

6 モモハモグリガ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
 (2) 予報の根拠
 ①巡回調査では、東信地域及び北信地域で第2世代幼虫による寄生葉がみられた。
 ②須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップ調査による誘殺頭数は、平年と

- 比べやや少ない。
 (3) 防除上の留意点
 ①「県防除基準」を参照し、防除する。

7 リンゴコカクモンハマキ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
 (2) 予報の根拠
 ①巡回調査では、幼虫による新梢被害はみられなかった。
 (3) 防除上の留意点
 ①「県防除基準」を参照し、防除する。

Ⅶ ぶどう

1 べと病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
 (2) 予報の根拠
 ①巡回調査では、東信地域及び北信地域で発生がみられたが、発生量は平年並であった。
 (3) 防除上の留意点
 ①「県防除基準」を参照し、降雨前あるいは降雨後、すみやかに防除する。
 ②薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。
 ③薬剤の散布むらが生じないように新梢管理を行う。
 ④防除実施後は、できるだけ早く袋掛けを行う。

2 晩腐病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
 (2) 予報の根拠
 ①近年の越冬伝染源量は、平年並とみられる。
 (3) 防除上の留意点
 ①「県防除基準」を参照し、降雨前後にすみやかに防除する。
 ②薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。
 ③薬剤の散布むらが生じないように新梢管理を行う。
 ④防除実施後は、できるだけ早く袋掛けを行う。

3 さび病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
 (2) 予報の根拠
 ①巡回調査では、発生はみられなかった。
 (3) 防除上の留意点
 ①べと病防除に用いるボルドー液の散布で、発病が軽減される。

4 チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
 (2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、中信地域で被害葉がみられた。
- (3) 防除上の留意点
 - ①例年、梅雨明け後から、発生量が増加する。
 - ②できるだけ早く袋掛けを行い、発生がみられる場合は、袋掛け後も防除する。

5 クビアカスカシバ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ①中野市のフェロモントラップによる誘殺頭数は、6月6半旬までは平年並で、7月第1半旬は一時的に急増したが、発生量は平年並である。
- (3) 防除上の留意点
 - ①発生園地では、袋かけ後の7月下旬～8月上旬に、枝幹部に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
 - ②寄生されていると、7月下旬以降より虫糞排出が目立ち始めるので、発見したら幼虫を捕殺する。

VIII かき

1 うどんこ病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では、南信地域で発生がみられた。
- (3) 防除上の留意点
 - ①「県防除基準」を参照し、防除する。

2 炭疽病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では、発生はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
 - ①「県防除基準」を参照し、防除する。
 - ②降雨前に重点的に防除する。

3 円星落葉病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では、発生はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
 - ①「県防除基準」を参照し、防除する。
 - ②7月中旬頃までが主な感染時期とされるため、重点的に防除する。

4 カキクタアザミウマ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では、発生はみられなかった。

- (3) 防除上の留意点
 - ①「県防除基準」を参照し、防除する。

5 カキノヘタムシガ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では、発生はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
 - ①「県防除基準」を参照し、防除する。

6 ハマキムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では、発生はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
 - ①「県防除基準」を参照し、防除する。

7 フジコナカイガラムシ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では、発生はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
 - ①「県防除基準」を参照し、防除する。

IX 野菜

1 トマト灰色かび病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では、南信地域の一部の施設栽培ほ場で発生がみられた。
 - ②施設栽培では多湿条件で多発する。
- (3) 防除上の留意点
 - ①多湿条件で発生しやすいので、過度の密植は避け、適正なかん水や換気等によって施設内の湿度低下に努める。
 - ②開花後の花弁から発病しやすいので、咲き終わった花弁の除去に努める。
 - ③「県防除基準」を参照し、防除する。
 - ④薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

2 トマト輪紋病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では、発生はみられなかった。
 - ②露地栽培では、気温が高く、降水量が多いと多発する。

(3) 防除上の留意点

- ①被害茎葉が次作の伝染源となるので、ほ場外で適切に処分する。
- ②「県防除基準」を参照し、防除する。

3 キュウリ斑点細菌病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①発病後の防除は困難であるので、「県防除基準」を参照し、予防防除を基本とする。
- ②被害の甚だしい葉及び果実は除去する。

4 キュウリべと病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①下葉で発病の著しいものは摘葉する。
- ②降雨や灌水により、地表面からの水のはね上がりによって伝染することが多いので、ポリマルチ、敷わら等によって水滴のはね上りを防ぐ。
- ③発病を認めたら直ちに、「県防除基準」を参照し、防除する。

5 キュウリうどんこ病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①発病を認めたら直ちに、「県防除基準」を参照し、7～10日間隔で防除する。その後は発生状況に応じて適宜に防除する。
- ②多発生してからは防除困難となるので、発病初期からの防除に努める。
- ③薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。
- ④下葉で発病の著しいものは摘葉する。

6 キュウリ炭疽病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①発病を認めたら直ちに、「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②初発時の発病葉はすぐに摘葉し、処分する。
- ③降雨や灌水時の地表面からの水滴のはね上がりによって伝染することが多いので、ポリマルチ、敷わら等によってはね上りを防ぐ。

- ④高温多湿条件で多発する。

7 キュウリ褐斑病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①発病を認めたら直ちに、「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②下葉で発病の著しいものは摘葉する。
- ③前年発生ほ場では、残渣や資材に病原菌が付着しているので十分注意する。
- ④高温多湿条件で多発する。

8 果菜類（きゅうり、トマト等）のウイルス性病害

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①発病株は直ちに除去して処分する。
- ②感染植物を吸汁したアザミウマ類及びアブラムシ類の吸汁により、健全な植物に伝染する。（アザミウマ類及びアブラムシ類の防除については次項9及び10を参照。）
- ③汁液伝染する恐れがあるので、畝ごとに使用するハサミを替えるなどして、汚染されたハサミにより、ほ場全体に拡がらないように注意する。

9 果菜類（きゅうり、トマト等）のアザミウマ類

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、北信地域のきゅうりの露地栽培ほ場の一部で寄生がみられた。中信地域のジュース用トマトのほ場の一部で、アザミウマ類の食害によって生じる白ぶくれ果の発生が確認されている。
- ②気象要因（+） 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量、日照時間はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②施設栽培で、日中の気温上昇により側窓を解放する場合は、防虫ネットを設置するなどし、飛び込みを防ぐ。

10 果菜類（きゅうり、トマト等）のアブラムシ類

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、中信地域のトマトの露地栽培ほ場の一部で寄生がみられた。（露地栽培では、高温となる夏は減少する傾向があるが、施設栽培では1年中発生する。）

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。

②施設栽培で、日中の気温上昇により側窓を解放する場合は、防虫ネットを設置するなどし、飛び込みを防ぐ。

11 アブラナ科野菜の黒斑細菌病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

①降雨が多いと多発する。

②育苗時の発生に注意し、発病苗とその周辺の苗は定植に用いない。

③発生ほ場の被害茎葉は、土壌中の病原菌密度が増加するのですき込まない。

④「県防除基準」を参照し、防除する。

12 アブラナ科野菜の軟腐病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、発生はみられなかったが、例年この時期から発生が増加する。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

②高温多湿条件で多発する。

13 アブラナ科野菜のコナガ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、東信地域の一部のブロッコリーほ場で被害がみられた。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

②薬剤感受性の低下を起こしやすいので、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

14 ハクサイピシウム腐敗病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

①高温期は軟腐病を併発しやすいので、軟腐病の防除も行う。

②「県防除基準」を参照し、防除する。

③降雨が多いと多発する。

15 ハクサイベト病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

①本病に感受性の高い品種の作付けは避ける。

②定植直後から定期的に予防散布を実施する。

③「県防除基準」を参照し、防除する。

④低温多湿条件のときに発生が多い。

16 レタスペト病・菌核病・灰色かび病・すそ枯病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

17 レタス斑点細菌病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

②降雨が多いと多発する。

18 レタス軟腐病・腐敗病

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、東信地域及び中信地域で発生がみられ、一部で発生密度が高かった。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、降雨前あるいは降雨後直ぐに防除する。

②常発地・多発地では、排水対策を行う。

③高温多雨条件で多発する。

19 アスパラガス茎枯病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、発生はみられなかった。

②気象要因(+) 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量、日照時間はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

①雨除けをすると、茎枯病の予防効果が高い。

②降雨時の泥はね等により感染するので、土寄せや敷きワラ等で泥はねを防ぐ。

③病茎は早期に刈り取り、ほ場外へ持ち出し、穴を掘って埋めるなどの適切に処分する。

④降雨が多いと多発する。

20 オオタバコガ(野菜、花き全般)

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、中信地域のトマトの露地栽培ほ場の一部で被害がみられた。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②結球野菜では、結球始期に重点的に防除する。
- ③薬剤感受性の低下を起しやすいため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

21 ヨトウガ類（野菜、花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、寄生はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、防除する。

22 ハモグリバエ類（野菜、花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①7月上旬の巡回調査では、南信地域のネギほ場の一部で寄生が多いところがあった。
- ②気象要因（+） 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量、日照時間はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ①苗床での防除を徹底する。
- ②育苗施設では粘着トラップを設置し、成虫を捕殺する。
- ③「県防除基準」を参照し、防除する。
- ④収穫後は、残さの処分を徹底する。

23 アブラムシ類（野菜、花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、南信地域のきくほ場の一部で寄生がみられた。
- (3) 防除上の留意点
- ①早期発見に努め、多発する前に「県防除基準」を参照し、防除する。

24 アザミウマ類（野菜、花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、前述のとおり果菜類で寄生が見られたほか、中中信地域及び北信地域のアスパラガス、南信地域のきくのほ場の一部で寄生がみられた。
- ②気象要因（+） 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量、日照時間はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ①育苗期又は定植時の防除が有効である。
- ②早期発見に努め、多発する前に「県防除基準」を参照し、防除する。
- ③アザミウマの種類によって薬剤に対する感受性が異なるので、防除を実施後

- に効果を確認し、系統の異なる薬剤で防除する。
- ④ほ場周辺の雑草に寄生し、野菜畑に飛び込む場合があるので、雑草防除等のほ場管理を行う。

25 ハダニ類（野菜、花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、北信地域の雨除け栽培のアスパラガスほ場の一部で寄生がみられた。
- ②例年、盛夏期以降に多発する。
- (3) 防除上の留意点
- ①早期発見に努め、多発する前に「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②同一系統・同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- ③施設などで乾燥状態が続くと多発しやすい。